

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号

0056

平成31年度行政事業レビューシート ( 総務省 )									
事業名	グローバルコミュニケーション計画の推進 -多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-			担当部局庁	国際戦略局			作成責任者	
事業開始年度	平成27年度	事業終了(予定)年度	平成30年度	担当課室	技術政策課 研究推進室			室長 高村 信	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	総務省設置法第4条第1項第69号			関係する計画、通知等	観光ビジョン実現プログラム2018(平成30年6月12日 観光立国推進閣僚会議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2018(平成30年6月15日閣議決定) 世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画(平成30年6月15日 閣議決定) 統合イノベーション戦略(平成30年6月15日閣議決定) 未来投資戦略2018(平成30年6月15日 閣議決定)				
主要政策・施策	科学技術・イノベーション、観光立国、IT戦略、地方創生、2020年東京オリパラ			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	「言葉の壁」をなくし、自由でグローバルなコミュニケーションを実現するため、多言語音声翻訳技術を高度化し、かつ、翻訳サービスを提供する企業等が共通して利用可能な多言語音声翻訳プラットフォームを構築し、実社会に実装することを目指す。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①多言語音声翻訳技術の研究開発 NICTが開発した多言語音声翻訳システムを実際の社会に普及させるために必要な技術として、雑音抑圧技術、位置情報を活用した翻訳精度向上技術、翻訳自動学習技術及び特殊文字認識技術の研究開発に取り組み、多種・多様な翻訳サービスを提供する企業等が共通して利用可能な多言語音声翻訳プラットフォームを構築する。 ②多言語音声翻訳の利活用に関する開発・実証 多言語音声翻訳技術について、国内複数箇所において実証実験を行い、子どもから高齢者も含め様々な人にとって十分に使いやすい多言語音声翻訳システムを実現する。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	1,260	1,257	700	0	0		
	執行額	1,260	1,257	699					
	執行率(%)	100%	100%	100%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	100%	100%	100%						
平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	31年度当初予算	32年度要求	主な増減理由					
	計	-	-						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度
	研究開発を実施した技術課題において、当初の見込みどおりか、それを上回った進捗及び成果をあげる。	継続評価及び終了評価において、当初の見込みどおりか、それを上回った進捗及び成果があがった課題の割合	成果実績	%	100	100	100	-	100
			目標値	%	90	90	90	-	90
			達成度	%	111	111	111	-	111
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	国の研究開発評価に関する大綱的指針(平成28年12月21日 内閣総理大臣決定) 「総務省情報通信研究評価実施指針(第5版)」								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度
	研究開発終了後、平成32年度までに研究開発成果の実装を行う。	本事業で確立する多言語音声翻訳プラットフォームを活用したサービス・システム導入機関数	成果実績	件	-	-	-	-	-
			目標値	件	-	-	-	-	100
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	地域IoT実装推進ロードマップ(平成28年12月9日総務省公表)								

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	技術課題数	活動実績		件	5	5	4	-
当初見込み			件	5	5	4	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	特許出願数	活動実績		件	11	10	18	-
当初見込み			件	11	11	9	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	論文掲載数	活動実績		件	2	13	4	-
当初見込み			件	4	9	13	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	研究発表数、報道発表数	活動実績		件	38	46	19	-
当初見込み			件	18	20	15	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	社会実証参加事業者数	活動実績		者	6	4	-	-
当初見込み			者	6	4	-	-	-
単位当たり コスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	執行額／技術課題数	単位当たり コスト	百万円	253.4	279.4	174.8	-	
		計算式	百万円/件	1,267/5	1,397/5	699/4	-	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	執行額／特許出願数	単位当たり コスト	百万円	115.2	139.7	38.8	-	
		計算式	百万円/件	1,267/11	1,397/10	699/18	-	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	執行額／論文掲載数	単位当たり コスト	百万円	633.5	107.5	174.8	-	
		計算式	百万円/件	1,267/2	1,397/13	699/4	-	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	執行額／研究発表数、報道発表数	単位当たり コスト	百万円	33.3	30.4	36.8	-	
		計算式	百万円/件	1,267/38	1,397/46	699/19	-	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	執行額／社会実証参加事業者数	単位当たり コスト	百万円	211.2	349.3	-	-	
		計算式	百万円/者	1,267/6	1,397/4	-	-	

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	Ⅴ 情報通信 (ICT政策)									
	施策	1. 情報通信技術の研究開発・標準化の推進									
	測定指標	定量的指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標年度 30 年度		
		研究開発課題の終了時における外部専門家による評価において、当初の見込みどおりかそれを上回る成果があったと判定された課題の割合 <アウトプット指標>	実績値	%	94	91	-	-	-		
			目標値	%	90	90	90	-	90		
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	多言語音声翻訳技術を高度化し、かつ翻訳サービスを提供する企業等が共通して利用可能な多言語音声翻訳プラットフォームを構築し、実社会に実装することにより、「言葉の壁」をなくし、自由でグローバルなコミュニケーションの実現に資することとなるため、我が国の国際競争力の強化や安全・安心な社会の実現に向けたICTの研究開発・標準化の推進に寄与する。										
	取組事項	分野:									
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	30年度	31年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		
		成果実績									
目標値											
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	30年度	31年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度			
	成果実績										
	目標値										
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係											
-											

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	日本に滞在する外国人は年々増加しており、多国籍の訪日外国人へ通訳・翻訳サービスを人手で提供することには限界があることから、低コストで同時かつ多数にサービス提供が可能な多言語音声翻訳技術への期待が高まっており、広く国民のニーズがあるといえる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	多言語音声翻訳技術において実用レベルの精度を実現するために必要な音声コーパスや対訳コーパスの整備には莫大な投資が必要であり、地方自治体や民間等が整備することは困難である。既に国内最大級のコーパスと翻訳エンジンを有する情報通信研究機構のシステムを最大限活用し、国費を投じて国が集中的にデータ整備と研究開発を行う必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	「未来投資戦略2018」や「世界最先端IT国家創造宣言」等の政府方針に基づき、年々増加する訪日外国人に対応する必要性から優先度は高く、「言葉の壁」という社会的課題の解決に大きく貢献するものであり、国による委託事業として実施することが適当である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定に当たっては、実施希望者の公募を広く行い、研究提案について外部有識者からなる評価会において評価を行い、最も優れた提案を採択する企画競争方式により、競争性を確保している。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業では、委託先においても事業の実施に必要な経費の一部を負担することとしており、受益者との負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	本事業では、外部有識者からなる評価会において、成果目標・活動指標について適切との評価を得ていることから、コスト等の水準は妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	本事業では、外部有識者からなる評価会において、委託先における経費の執行状況、予算計画について年度毎に評価を実施しており、有効かつ効率的な予算執行を担保している。また、年度末においては、監査法人による監査を実施するなど、費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されていることを確認している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	本事業では、委託先における経費の執行において、見積書の複数取得等を義務付けるなどコスト削減を進めている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	外部有識者による評価において、研究計画は順調に進捗しており、当該年度の研究目標を十分に達成しているとの評価を得ており、成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	研究の実施手段については、計画段階及び実施中において、外部有識者による評価を受け、実効性の高いものとなるよう随時見直しを図っている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	外部有識者による評価において、研究計画は順調に進捗しており、当該年度の研究目標を十分に達成しているとの評価を得ており、活動実績は成果目標に見合ったものとなっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	
点検・改善結果	点検結果	本事業は、年々増加している訪日外国人への人手による通訳・翻訳サービスの提供の限界という課題の改善に資するものであり広くニーズはあるが、多言語音声翻訳技術の開発や翻訳システムの整備には莫大な投資が必要であるため、地方自治体や民間等が実施することは非常に困難である。また、「未来投資戦略2018」や「世界最先端IT国家創造宣言」等の政府方針に基づき、訪日外国人の「言葉の壁」という社会的課題の解決に大きく貢献するものである。以上により、ニーズ及び優先度は高く、国費を投じて国が実施する必要性の高い事業であると認められる。	
	改善の方向性	平成30年度をもって事業終了。	

**外部有識者の所見**

外部有識者による点検の対象外

**行政事業レビュー推進チームの所見**

終了予定	平成30年度をもって事業終了。
------	-----------------

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

予定終了通り	平成30年度をもって事業終了。
--------	-----------------

**備考**

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	-
平成26年度	新27-0009	平成27年度	新27-0005	平成28年度	0065	平成29年度	0062
平成30年度	総務省 ( 0056 )						

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)

```

graph TD
    A[総務省 699百万円] -- "【随意契約(企画競争)】" --> B["A.民間企業等(6機関) 695百万円"]
    A -- "【一般競争契約(最低価格)】" --> C["B.監査法人(1機関) 2.2百万円"]
    B --- D["取得物品の検査、研究開発に関する  
会議参加の経費"]
    C --- E["総務省との委託研究開発契約に基づく  
研究の実施等"]
    C --- F["委託費に関する証憑書類、情報通信技術の委託研究開発における  
経理状況検査に係る業務の請負"]
            
```

※単数処理の関係で合計額が一致しない。

費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.株式会社みらい翻訳			B.PwCあらた有限責任監査法人		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
その他経費	インタフェース開発、実証実験請負費等	302	人件費等	経理検査費用	2	
一般管理費	一般管理費	30				
計		332	計		2	

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社みらい翻訳	1010401114941	グローバルコミュニケーション計画の推進-多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-I. 多言語音声翻訳技術の研究開発	332	随意契約 (企画競争)	1	100%	
2	国立研究開発法人情報通信研究機構	7012405000492	グローバルコミュニケーション計画の推進-多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-I. 多言語音声翻訳技術の研究開発	215	随意契約 (企画競争)	1	100%	
3	パナソニック株式会社	5120001158218	グローバルコミュニケーション計画の推進-多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-I. 多言語音声翻訳技術の研究開発	65	随意契約 (企画競争)	1	100%	
4	株式会社KDDI総合研究所	5030001055903	グローバルコミュニケーション計画の推進-多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-I. 多言語音声翻訳技術の研究開発	34	随意契約 (企画競争)	1	100%	
5	パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社	3010401028082	グローバルコミュニケーション計画の推進-多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-I. 多言語音声翻訳技術の研究開発	33	随意契約 (企画競争)	1	100%	
6	日本電信電話株式会社	7010001065142	グローバルコミュニケーション計画の推進-多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-I. 多言語音声翻訳技術の研究開発	16	随意契約 (企画競争)	1	100%	

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	PwCあらた有限責任監査法人	8010005011876	委託経費に関する会計監査の実施	2	一般競争契約 (最低価格)	1	95.9%	